



五木東小 第14号

学校便り
文責
生田 文明

知恵いっぱいの東小へ

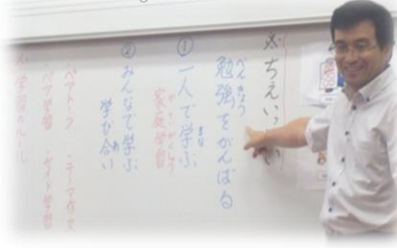


学習するには、最適な季節です。そこで、四日の全校集会では、四つの「いっぱい」のうち、実りの秋となるように特に「知恵いっぱい」に力を入れ頑張ろうと話しました。知恵いっぱいの東小になるためには、以下の二つのことに特に力を入れることにしました。

一つは、授業での学び合い活動の充実です。そのためには東小スタイル（学びのルール）を全員が身に付け、ペア学習及びガイド学習を確実にできるようにすることが必須条件です。そこで、これらの手引き書を全児童に配付し机に貼るなどして、学び合い活動を行う際、いつでも利用できるようにしました。現在この手引き書を活用しながら学び合いを行っているところです。

二つ目は、宿題・自主学習・読書を柱とする家庭学習の確実な実施です。家庭学習の進め方や内容について記したプリントを全児童に配付し、家庭学習をする時に目につくところに貼るようにしました。必ずこのプリントを観て、これに従って進んで学習することが大切です。受け身の学習から、主体的な学習へ。知恵いっぱいの東小にするには、欠かせないことです。

学校では学び合い活動を充実させ、児童と共に創造する授業をめざし、家庭では授業の定着を図る宿題・主体的な学習を育む自主学習、そして読書を行うことをめざします。各家庭の協力が重要です。お子さんへの励ましの声かけをよろしくお願いします。



先輩の姿に学ぼう



九日（火）、三・四年生は、複式学級での学習の仕方について学ぶために、学習の先輩である五・六年生の算数の授業参観を行いました。

自分たちで学習を進める五・六先生のガイド学習を見て、学習の司会進行をするガイド役やフロアー（ガイド役以外の児童）の良いところ、自分たちも取り入れたいところを必死にメモする三・四年生。自分たちよりテンポ良く進むガイド学習に三・四年生は、びっくり。一年後、二年後にこの教室で学ぶ自分の姿を上級生に重ね合わせ、真剣な眼差しで授業に見入っていました。

一方、五・六年生は、下級生の訪問に少し照れながらも、緊張した様子で学習を進めていました。互いに良い刺激となった「先輩の姿に学ぼう」の時間でした。

「次は、五・六年生が三・四年生の授業参観をしたいね。」との一言に、動揺する三・四年生。互いに学習する姿を見せ合うことで、互いの良さや課題に気づき、自分たちの学級を振り返るよい機会にもなります。

今回の「先輩の姿に学ぼう」とおして、お互いに意見や考えを出し合い議論すること（学び合うこと）で、学習（学び・考え）がさらに深まることを実感できたにちがいありません。

三・四年生は、五・六年生の授業参観で学んだことを学習に生かし、学校全体で、今後も授業改善を推進していきます。



縦割り班給食始まる

二期期から、緑の少年団活動や日々の掃除で行っていた縦割り班での活動を給食でも取り入れることにしました。

これまでの配膳では、ご飯・汁物は同量の注ぎ分けでよかったのが、今回の縦割り班給食では、班員が一年生から六年生までであるため、それぞれの学年に応じた量を注ぎ分けなければならなくなりました。しかし、日を追う毎に子どもたちは慣れ、今では、上手に注ぎ分けることができるようになりました。

各班とも、とてもチームワークが良く、給食の準備や後片付けも手際よく、会食時の会話も弾みます。

この活動を通して、さらに思いやりや感謝の心を育てていきたいと思っています。



ようこそ五木東小へ

五日（金）、錦町の小学校に勤務する今年度採用された先生方（三人）が、複式学級の授業参観のために来校されました。

自分たちで学習を進めるガイド学習や、学び合いの様子、先生と子どもたちが一緒になって授業を創りあげていく本校の学習スタイルに感銘され、「児童全員が進んで学習する姿に感心しました。自分の学級でも、主体的な学習をぜひ取り入れていきたい。」との感想もいただきました。

